

# 産業保健スタッフ養成のための メンタルヘルス教育プログラムの開発及び検証

研究代表者	東京産業保健推進センター基幹相談員	松井 知子
研究分担者	東京産業保健推進センター基幹相談員	飯島美世子
	東京産業保健推進センター基幹相談員	斎藤 照代
	東京産業保健推進センター基幹相談員	角田 透
	東京産業保健推進センター基幹相談員	錦戸 典子
	東京産業保健推進センター基幹相談員	松島 尚子
	東京産業保健推進センター基幹相談員	森崎美奈子

## 1 はじめに

産業保健領域において、メンタルヘルス対策は健康管理の一貫として組織全体の取り組みであり、また、快適職場づくりといった作業環境管理からの体制づくりであることは周知のことである。

平成22年度東京産業保健推進センター調査研究結果から、事業所におけるメンタルヘルス対策は、産業保健スタッフならびに人事労務担当者等が自らの役割、業務を把握しており、組織的な取り組みが必要であると理解はしているものの、実際の連携方法、その後のフォローなどの実践、経験知に不安があることが確認されている。

そこで、産業保健スタッフの養成過程を含めた教育プログラム内容ならびに現場における円滑な対応のための実習研修を行ない、受講者のプログラム評価に基づき、さらに更新した新任時の系統的な育成研修ツールを提供することを目的とした。

東京産業保健推進センターにおいて、新任看護職、相談業務担当者向けに行うべき研修内容・方法が明らかになり、産業保健スタッフ支援の具体的方法の提示を通して産業保健活動の普及・推進に貢献すると考える。

## 2 調査研究方法

①産業保健推進センターのメンタルヘルス研修に有効な教育ツールとして、重視すべき課題ごとに研修プレ

ゼンテーションファイルを作成し、研究担当者や専門家などが講師となり、実証研修として「基礎的な知識と理解」「応用としての技術」及び「実習」という系統的な研修講義を、平成23年10月29日、30日（2日間、6コマ）に実施した。参加者は37名であった。

②研修受講直後の評価、研修終了6ヶ月後（フォロー）の目的達成状況アンケートを実施した。フォロー調査期間は平成24年2月10日～2月27日で、回答者は21名（回収率56.8%）であった。

受講者のフィードバックの検討から研修プログラム内容の更新作成を行なった。

## 3 結果

①参加者の属性は、受講者募集時の要件として「産業保健スタッフとしての経験が概ね1～3年の方」としたが、実際の受講者の経験年数は平均5.71年（0.5年～35年）であった。参加者の86.5%がメンタルヘルスに関する業務で困った経験が有ると回答していた。

②参加者の多くが研修に求めていることは「教育のための知識習得」「一次予防の具体的方法学習」であったことは、受講者が業務として実行している内容と一致していたことから頷けることである。次に「面接技術体験」「面接技術向上」等のスキル獲得といった具体的な目的が高いことが示された。これらに比較して、「体制構築のための知識習得」「復職支援方法学習」と

いった連携、組織対応が必要とされる点については低いことが示された。

③今回の研修の理解度は、参加者の90%以上の者がすべてのプログラム内容について「理解できた」と答えていた。「難しかった」と答えているのはメンタルヘルス体制ならびに組織の理解、面接技術、ケースマネジメント等であり、これは対象者に新任者が多いことに所以すると思われる。この点についてさらに強化、工夫することが求められている。第一次、二次、三次予防についてはある程度理解がすすんでいることが示された(図1)。

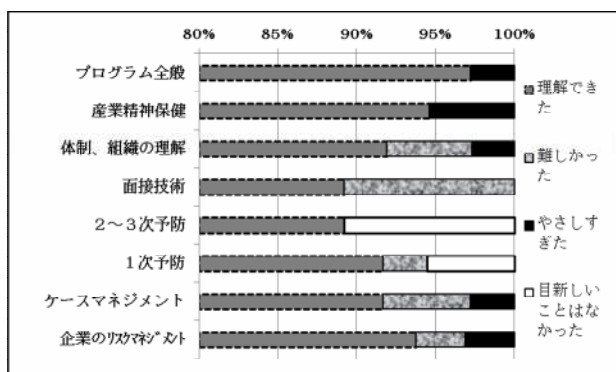
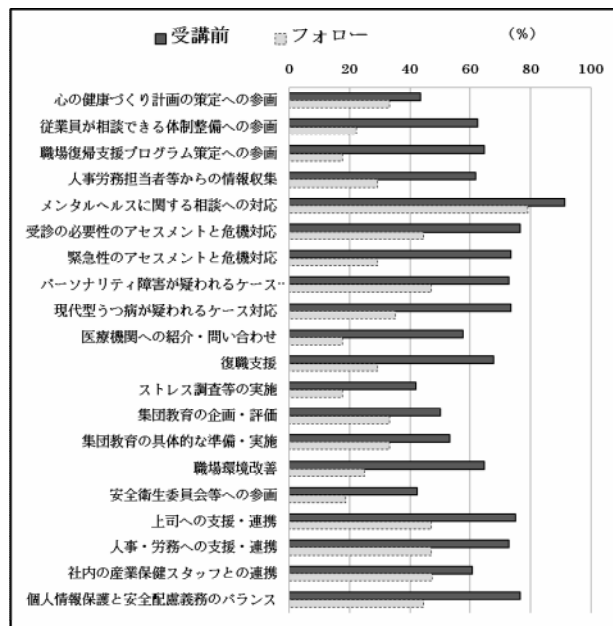


図1 各プログラム項目の理解度

④フォローの目的達成状況アンケートでは、研修を受講した結果、組織として新たに取り組みを計画しているものとして、メンタルヘルスの社内体制の構築、衛生委員会の審議事項にメンタルヘルス対策を入れ込むことなど、具体的に組織活動に反映されていることが示された。また、メンタルヘルスについて一般社員、管理監督者への教育が計画されていることや、復職支援プログラム作成ならびに就業規則の見直し等、研修をきっかけにメンタルヘルス活動が進められたことが示された。

⑤メンタルヘルス活動に対して「困った経験」の有無について、「有」と答えた者の出現率を受講前と受講後フォローとを比較した。いずれの活動においても受講前では約50%が困った経験を持っていたものが受講後フォローでは、すべての活動で「有」の出現率が低下した(図2)。

図2 受講前とフォローにおけるメンタルヘルス活動に対して「困った経験の有」の出現率



研究成果物は各センターにおいて活用できるよう、パワーポイント教材を収めたCD-ROM(表1)とカウンセリングの副教材用として作成した映像(DVD)(表2)をセットで「メンタルヘルス基礎研修ツール集」とした。ツール集には「教材のねらいと使用方法」を説明したブックレットも封入した。

この教材を用いることで、各センターにおいて標準的な「メンタルヘルス基礎研修会」を実施できるようになると考える。

表1 CD-ROM「メンタルヘルス教材資料集」プログラム

I	産業保健活動とは
II	メンタルヘルス活動を推進するための仕組み・体制づくり・連携
III	メンタルヘルス活動に活かす面接技術～カウンセリング～
IV	メンタルヘルス活動に活かす面接技術～コーチング～
V	職場のメンタルヘルス対策～段階的予防の観点から～
VI	職場のメンタルヘルス対策～一次予防の重要性～
VII	企業のリスクマネジメント～自殺・被災の危機介入を中心に～

表2 DVD「産業保健スタッフによる面接の進め方～初回面接のポイント～」について(26分42秒)

● はじめに
● ロールプレイと振り返り(3ケース)
● まとめ